

## 「がん哲学外来における動的平衡」

第10回がん哲学外来コーディネーター養成講座  
第9回がん哲学外来市民学会群馬大会  
大会長 片山和久

動的平衡とは物理学・化学などにおいて互いに逆方向きの過程が同じ速度で進行することにより系全体としては時間変化せず平衡に達している状態を言います。

すなわち、平衡は外見上静的に見えるが、実際は動的状態にあるという考え方で、分子生物学者の福岡伸一氏はこの解釈を生命観にまで拡大して「生命の本質は遺伝子や細胞といった要素にあるのではなく、要素と要素の関係性、それらの間で起きる相互作用にこそある」と表しています。更に福岡氏は動的平衡という視点で社会活動を見てみるとその活動の本質が見えてくるとも論じています。

今回、私たちは2020年7月に群馬大会を行う予定で準備していたわけですが、その最中で新型コロナパンデミックに見舞われ、残念ながら2020年の開催を断念しました。2021年までの開催延期そして感染症対策のため従来の会場に集まって行う開催形式の変更を余儀なくされた訳ですが、その時に考えたことは「がん哲学外来」にとって変わっても良いことは何なのか？ 変わってはいけないことは何なのか？ でした。つまり「がん哲学外来の本質」を動的平衡の視点で考え、最も大切にしなければならないことは何？ という問いでした。この問いに対する答えが出ないことには我々は前に進めないと考えました。

この点について群馬大会実行委員会の面々で何度も話し合いを重ねました。その結果として出てきた答えは、どのような状況であっても出会いの契機(=邂逅)を果たすこと、そして人と人との繋がりを醸すこと(=連続性)でした。そしてそのために変えなくてはならない事は大胆に変えていくということでした。

今回の完全リモート配信による養成講座と市民学会の開催は、そのような経緯の中で出てきた我々なりの答えだったのです。

今、大会が終わった後に振り返ってみるとリモートで開催したことに対する反省点や修正点が見えてきますが、受講された方々やスタッフとして本大会の運営にお力添え頂いた方々のお言葉から今大会のテーマであった「人生の邂逅に見る不連続の連続性」の種は蒔くことができたと感じており、がん哲学外来として大切にすべき哲学の動的平衡は達成できたのではないかと感じております。



◇ ご講演の先生方  
左から高橋久仁子・柳田康弘・川口克己(敬称略)

## 第9回 がん哲学外来市民学会群馬大会

2021年6月13日 9:30-15:10

【配信会場】〒371-0023 群馬県前橋市本町2丁目1-1  
群馬医療福祉大学本町キャンパス(K' B1X元気21まえばし 6F)

- 9:30~ 大会長 開会挨拶  
片山和久 伊勢崎市民病院 外科診療部長
- 9:40~ 講演1 「内村鑑三の死との対面」  
鈴木 守 群馬大学名誉教授・元群馬大学学長  
座長:金井 伸行 日本郵政健康管理センター産業医
- 10:20~ 講演2 「がんと健康食品の邂逅」  
高橋 久仁子 群馬大学名誉教授  
座長:沼田 千賀子 神戸薬科大学臨床教育センター教授
- 11:00~ 休憩 (10分間)
- 11:10~ 群馬県内で活動するがん哲学外来カフェの紹介  
テーマ「人生の邂逅に見る不連続の連続性~カフェによるPatient Empowerment」
- 11:30~ 休憩 (10分間)
- 11:40~ 講演3 「がん治療における医者と患者さんのコミュニケーション  
~がん治療の正しい理解と自主的な治療選択をするために~」  
柳田 康弘 群馬県立がんセンター乳癌科部長  
座長:藤井 李明 群馬大学総合外科 乳癌・内分泌外科准教授
- 12:20~ 昼休憩 (40分間)
- 13:00~ 講演4 「がん専門医とAI(人工知能)の邂逅~ある救命につながった事例」  
川口 克己 キャンメディカルシステムズ(株)ヘルスケアIT事業部  
座長:北澤 彰浩 佐久総合病院副院長
- 13:40~ 休憩 (10分間+映画予告編)
- 13:50~ 座談会 テーマ「がんと生きる 言葉の処方箋」の撮影秘話  
〈司会進行〉宗本 義則、春日井 いつ子  
〈映画製作者〉榎野 興夫 先生、野澤 和之監督、田寺 順史プロデューサー
- 14:40~ 総評  
がん哲学外来市民学会代表 榎野 興夫 先生
- 15:00~ 閉会挨拶  
次期大会長 平林 かおる 栃木県立がんセンター 副病院長・病理診断科
- 15:10 閉会

## ボランティアを終えて~感想文~ 「群馬医療福祉大学」学生の皆さまから

### <森川 礼華>

今回はがん哲学外来市民学会 群馬大会のボランティアに参加させていただきました。大学でのボランティア活動は初めてで、とても緊張をしていました。

当日は飲み物やお弁当の配布、zoomによる撮影を担当しました。初めは不安な気持ちでいっぱいでしたが、野澤監督から直々にお褒めの言葉を頂き、周りの共演者の方々からも優しくご指導をもらうことが出来ました。zoomの為、閲覧している方にどのようにしたら見やすいか、自分なりに工夫をすることが出来ました。

コロナ禍ということもあり、zoomでの開催ではありましたが、多くのスタッフの方や先生方の支えもあり、無事にボランティアを終えることができました。先生方のお話も間近で聞くことができ、群馬の歴史について新しい発見や知識を得ることができ、貴重な体験をさせて頂いたことにとっても感謝しています。今回のボランティアでの経験を大切に、これからの活動にも活かしていきたいです。

### <根岸 初芽>

今回のがん哲学外来市民学会 群馬大会のボランティアに参加して、普段の学校生活や日常生活では学べないような専門的な内容を詳しく学べたと思っています。私は元々、コロナ禍の中で中々ボランティア活動の募集がないところに、このがん哲学外来市民学会のボランティアがあったのでお手伝いがしたいという気持ちで参加をしました。ボランティア活動の内容の中で最も印象に残っている仕事としては実際の講演をして下さる先生方の Zoom でのカメラ係です。コロナ禍という状況なければリモートでの開催ではなかったと思い、直接先生方の目の前でカメラを通して講演を間近に聴くことができとても貴重な経験だったと思います。特に、群馬大会ということで上毛かるたが出てきたり鈴木先生の講演の中では内村鑑三の話が出てきたり、群馬生まれ、群馬育ちの私でも初めて知るような内容ばかりでとても良い学びが出来たと感じています。

### <室岡 佳宏>

がんは、とても身近な病気で、がんについての、知識や理解を深めたいと思い、今回のボランティアに参加しました。

公演の桜井なおみ社長の話では、「傾聴」、ただ患者さんの話を聞くだけでいい。この言葉が心に残りました。私自身もし患者さんを担当する立場になったら、患者さんのためになると考えて、何かしてやろうという、気持ちになってしまうと思います。しかしそうではなくて、患者さんの気持ちや、やりたいことを最優先にしていく考え方を学びました。

永井弥生先生の話では、「患者さんと自分を客観視する」、この言葉が心に残りました。「出来事や患者さん、また、そのご家族の感情を客観視して、対応する」、とても難しいことだと思いますが、将来この考え方を実践できるようにになりたいと思いました。

この度は、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この経験を将来に生かせるように勉強を頑張っていきたいと思えます。

### <中澤 恋>

今回はがん哲学外来市民学会 群馬大会のボランティアに参加させて頂きました。大学に入学してから初めてのボランティアでしたが、専門的な内容や色々な先生方のお話を聴くことが出来たのでとても良い経験ができたと思います。

今回のボランティアで1番の経験になったのが、zoom で写すためのカメラ係のお仕事でした。コロナ禍ということもあり、対面ではなく zoom という形での開催でしたが、直接先生方のお話を聴くことができ、自分にとっても貴重な経験の一つになったと思います。

今回のがん哲学外来市民学会群馬大会のボランティアを通して、群馬生まれでも知らなかった内村鑑三や上毛かるたなどのことを詳しく知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。これを糧にこれからの大学生活での勉学に励んでいきたいと思えます。

### <森下 茉耶>

今回はがん哲学外来コーディネーター養成講座のボランティアに参加させて頂きました。大学に入学してから初めてのボランティアで、とても不安なことばかりで緊張していましたが、スタッフの方が的確に指示をして下さりスムーズに動くことが出来ました。

私は今回のボランティアで、参加する方の案内や、お弁当配り、ゴミの回収などを行いました。実際に様々な方と接することが出来たのでコミュニケーション力の向上に繋がったと思います。また、コロナ禍において県をまたいだ交流が難しい中、リモートを通して様々な地方の方々の実体験や専門的な知識などを知ることができ、とても良い経験になりました。これを糧に今後も積極的にボランティアに参加していきたいと思えます。

### <尾竹 祐輔>

令和3年6月12日の土曜日に群馬医療福祉大学でがん哲学外来コーディネーター養成講座が行われました。私はボランティアとして参加させて頂き、とても貴重な体験をしました。

群馬医療福祉大学に入学して初のボランティア活動ということもあり、初めは緊張や不安な気持ちが多かったです。

しかし、スタッフの方々や講座に携わっている方々のご協力や支えがありお陰さまで私たちはとても貴重な体験をすることが出来ました。

このがん哲学外来コーディネーター養成講座のボランティアに参加し、がん哲学外来市民学会代表である樋野興夫先生をはじめとする名高い先生方の貴重なお話をお聴きすることができ、患者様と接する上での心得や、これから必要となってくる力など数多くのことを学びました。

先生方のお話をお聴きするまでは、相手に何かしとあげようとしてしまう気持ちが強く、前のめりになりがちでしたが、桜井先生がおっしゃっていた「スーパーマンになる必要はない」という言葉で自分の中で何か吹っ切れた感覚がありました。

将来作業療法士として活躍していくために、群馬医療福祉大学で作業療法士としての技術や知識を学ぶにはもちろんのこと、この講座で学んだことを活かしていきたいと思えます。

### <松岡 壘>

私は、ボランティアに参加できて本当に良かったと思っています。普段、参加者の方々だけでなくスタッフの方々ともお話しする機会がないので良い機会になりました。また、桜井なおみ先生や永井弥生先生の講義を聴いて、ガンサバイバーシップやガンカフェ、患者さん目線の考えを知ることと、患者力も必要だということもわかりました。

「ありがとう」という言葉をいただいて、今回のような機会にまた参加したいと思いました。ただ、スタッフの方々や参加者の皆さんとお話しをする機会を自分からもっと作れたと心残りもあるので、他のボランティアでも今回のことを生かしていきたいと思えます。コロナの心配もある中、参加させていただきありがとうございました。

### <柳澤 美来>

がん哲学外来のボランティアに参加させていただきました。大学に入って初めてのボランティアで、とても緊張しました。実際ボランティアに参加してみて、参加者の方々の案内やお弁当の配膳、zoomのトラブル発生時の対応などを行いました。zoomのトラブル発生時の対応を実際に行い、少し戸惑ってしまった自分がありました。臨機応変に対応することの難しさを痛感しました。

今回のボランティアを通してたくさんの方々とのコミュニケーションを取り、あいさつの大切さを改めて気付かされました。また、視野を広く持つなどの改善点を見つけることが出来、とても貴重な体験をさせていただきました。今回のボランティアで学んだこと、また改善点をこれからの大学生活にしっかり活かしていきたいです。

### <桑原 汐璃>

今回、がん哲学外来市民学会群馬大会にボランティアとして参加することが出来たことをとても嬉しく思います。お手伝いでの参加だったため、残念ながら全ての講演を聞くことは出来なかったのですが、聞かせて頂いたお話はどれも非常に興味深いものでした。

がんは身近な病であるからこそ、まず知ることが大切だと思うので、こういった場があることはとても有難いと感じます。

お手伝いをさせて頂きながらたくさんの方と関わることができとても充実した一日を過ごすことが出来ました。今回は本当にありがとうございました。

### <宗像 友瑚>

今回のがん哲学外来の学生スタッフとしてのボランティアは、私が大学に入学して初めてのボランティア活動となりました。私はがん哲学外来のボランティア活動を通して多くのことを学ぶことができたと感じました。

まず一つ目として、同じ学生ボランティアの学生間での意思疎通や情報共有を行うことで、自分達で考え、行動することができました。運営の方に言われてから行動するのではなく、自分達で次に何をすればよいのかを考えて行動することが大切だと学びました。

二つ目ですが、私はがん哲学外来という分野も癌についてもあまり深く調べたり、考えたりしたことがありませんでした。しかし、樋野先生をはじめとする先生方の講座を聴かせていただいたことで、癌になった後どう生活していくのか、癌について考えるよい機会となりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

### <山本 ゆい>

私は、今回行ったがん哲学のボランティアを通してたくさんの人たちと関わることができました。がんについてのお話を聞かせていただいたり、それを聞いている人たちとも仲良くさせていただいたり、とても楽しくボランティアをすることができました。中には、私が違う行動をとってしまって注意をされたりすることもありました。しかし、それも良い経験になることができました。

終わった後にたくさんの人に「ありがとう」と言ってもらい、ボランティアに参加して良かったと思うことが出来ました。私はボランティアを行ったことが今までなく、初めてのボランティアを経験させていただきました。とても良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

### <編集後記>

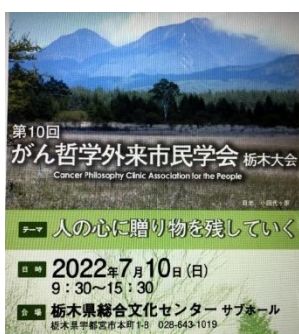
星野 昭江

◇いつもなら会場の中を駆け回って講演する先生方の写真を何枚も撮ったり、養成講座の各グループを回りカメラに収め、ニュースレターを発行する。

◇今年はそれがガラリ、変わった。パソコンの前に座って講師の先生方のお話をメモしたり、リモート画面の写真を撮ったり。

◇ボランティアの学生さんたちの感想文を全部読ませてもらった。何とフレッシュで一生懸命な……。その気持ちが清々しい。

◇この度の群馬大会とリモート養成講座を成功させた皆様に大いに感謝したい！見守ることしかできなかったけれど、困難な状況の中で成し遂げたその功績は大きい！



◇みなさま。来年の7月10日。栃木県総合文化センターでお待ちしています。